

たのしく、仲良く、学び成長がミエル、 JIPAの屋台骨を支える委員会！

会誌広報委員会 委員長

二階堂 宏央 氏

(所属：サントリーホールディングス株式会社)



interview

自己紹介

新価値商品、新規事業開発、イノベーション創出に向けて事業・研究開発の伴走支援をしています。毎日、神輿を担いでワッショイ・ワッショイしています。

趣味はジョギングで毎年どこかのフルマラソンに参加しています。また、スイーツが大好きで、週末は近所のパン屋さん巡りをしています。

Q 会誌広報委員会とは？

会誌広報委員会は、JIPAの機関誌である『知財管理』誌及び広報誌『季刊じば』の企画・編集を担当している委員会で、会員企業へ満足度の高い情報を発信するのが当委員会のミッションです。現在3つの小委員会と、各小委員会で議論された論説企画提案と『知財管理』誌の編成計画を審議する定例委員会がそれぞれ毎月開催されています。

第1小委員会…東日本・海外の会員企業・賛助会員所属の委員で構成

第2小委員会…西日本の会員企業・賛助会員所属の委員で構成

第3小委員会…少数知財企業所属の委員や知財経験が浅い委員を中心に構成

『知財管理』誌の原稿の約6割は、会誌広報委員会のメンバーが企画した論説です。委員それぞれが知りたいこと・学びたいことを企画にして、有識者と面談をして執筆の依頼をします。執筆いただいた論説を査読した上で、『知財管理』誌に掲載しています。また、毎年10月号は特集号として、メインテーマを決めてそれに沿った論説を全て会誌広報委員会で企画しています。特集号の企画から発行まで1年以上の時間をかけ、一致団結してプロジェクトを推進しています。

Q 委員会の特長／魅力は？

★特長

会誌広報委員会は他のJIPA専門委員会と異なり、特定の法域や国・地域に限らず、知的財産から知的資産、知財戦略から経営戦略など多様なテーマを扱っています。また、メンバー構成も20代の若手からベテランまで幅広く、少数知財部員から大規模知財部員、さらには国内外の賛助会員も参加しているととても多様性に富んだ委員会なのが特長です。そのため、一つの分野に絞られない様々な知見が得られるとともに、このような多様なバック

グラウンドを持つメンバーが集まることで活発な議論や意見交換が行われ、枠にとらわれない新たな視点、気づきやアイデアが生まれています。

そして、小委員会と定例委員会の月2回の会合で集まって議論をする他に、有識者との執筆面談への希望者の同行参加、委員会後の懇親会でさらにコミュニケーションを深めることができていますので、委員会全体でチームワークがとても良く、心理的安全性が高いのもこの委員会の特長だと思います。「社内の同僚よりも会っている」との声が聞こえる程委員同士の結びつきが強く、心理的安全性の高さ故の、委員みんなが積極的に発言するワイガヤの議論があり、委員会後の懇親会では普段は聞けない話もして盛り上がっています。

★魅力

執筆面談やインタビューなどを通じて、著名な有識者やJIPAの理事など、様々な方とのダイレクトコミュニケーションができることが大きな魅力です。面談を通じて、原稿には載せられない、貴重なお話をお聞きすることもできます。たくさんの方とお会いできるので、人脈がとても広がります。また、各委員及び所属企業の方1名に対してJIPA研修の無料受講特典があります(海外コース及び特別コースは除く)。個人的には、月2回の懇親会で委員の皆さんとコミュニケーションが取れるのも魅力と思っています(笑)。

Q 委員会としてのこだわりは？

★会誌広報委員会では得られないプライスレスな体験を！

「著名な有識者とお会いするのが会誌広報委員会」ということで、普段の業務では得られないプライスレスな体験や出会いができるような機会を作るようにしています。例えば広報誌『季刊じば』では毎年特許庁長官インタビューを掲載しています。普通は特許庁長官と会える機会はありませんので、『季刊じば』2025年冬号の特許庁長官インタビューの時には、担当者全員で長官室を訪問して、特許庁長官と記念撮影をしました。私も含めてプライスレスな体験ができたと思います。また、日本を飛び出し、アメリカや欧州の長官へのインタビューも挑戦しました。長官以外にも委員が「会ってインタビューをしたい！」ということであれば、失敗を恐れずに挑戦するように積極的に応援しています。